川柳

青木十九郎
重森恒雄　選
峯　裕見子

特選

ハイハーイ裏の畑でする返事

大津市　大橋啓子

（評）玄関のチャイムが鳴る。あるいは「こんにちは」と声がする。いつものことなので、親しい人なら畑まで入ってくるかもしれない。宮沢賢治のエピソードを思い出す。日々の暮らしの中で、自身が発した明快な「ハイハーイ」。（これが句になる）と作者の胸でコトンと音がしたかのような一句である。（裕見子）

特選

本当の夏を探しているジャンプ

東近江市　河﨑　章

（評）良いですね。初夏の若々しさ、清々しさに楽しくなってくる句。思いっきりジャンプしてキラキラとした素晴らしい夏を見つけてほしい。危うさもあって、それが若さだろう。（恒雄）

特選

春うらら迷路の先に咲く笑顔

清崎町　柳本和子

（評）現在、私たちは新型コロナウイルスに生存を脅かされ、不安を抱えながら暮らしている。迷路の中で、さ迷い途方に暮れているような状態であるとも言えよう。しかし、コロナ禍は必ず終息し―迷路から抜け出て、笑顔を取り戻せよう。（十九郎）

入選

たくさん笑い何時の間にやらおばあさん

地蔵町　大谷のり子

（評）生きていればつらいことは多い。そのことを書いていて涙で心を浄化させるのも文芸の力であるが、この句には涙を投げ捨てたような力強さがある。それなのに、なにやらほろ苦くて人生というものを感じさせる。（裕見子）

入選

静かだなあ二人の会話もとぎれそう

古沢町　野洲令子

（評）会話を禁じられているわけでもないのにあまりの静けさに二人が話すのを止めてしまう。それぞれに相手を気遣いながら、自らの物思いに耽る。蝉の声は賑やかかもしれない。（恒雄）

入選

やさしさを混ぜて発酵待っている

平田町　竹内歌子

（評）何を目指しているのかは分からないが、その考えや計画が心の中で次第に熟していく中に、思いやりや慈しみの心を込めた、ということに作者の心の温かさを感じる。（十九郎）

入選

太陽とゾウさん連れた孫が来た

近江八幡市　西村孝子

（評）小さな子の笑顔や腕や足が見えるようだ。お気に入りの縫いぐるみか、どこへ行くにも一緒のゾウさん。「孫がかわいい」とは書いていないのだが、省略の効いた表現にその思いが横溢している。（裕見子）

入選　すぐ側の工場の音に励まされ

鳥居本町　谷口繁子

（評）いつも聞きなれている音だろう。普段はうるささも感じているのかもしれない。だけど、気持ちが沈んでいるときには、あいも変わらぬその音が頼りになる。懐かしく響く低音なのだ。（恒雄）

入選　黄昏の波がささやくひとり言

米原市　西尾辰之

（評）黄昏の波は、いつしか作者と重なった。来し方を複雑な思いで振り返るとき、孤独感がひたひたと胸に迫る。思わずぽつりとつぶやいたひとり言が波と共に消えてゆく。（十九郎）

佳作　鍬の柄に父の自伝とワクワクと

東近江市　小林清次郎

佳作　おくれ毛が好きで人間しています

犬上郡甲良町　川口利江

佳作　何もかも知っててくれる影と居る

須越町　疋田弥栄子

佳作　いつか咲くまだ信じてるチューリップ

八坂町　山本はるか

佳作　テレワーク親孝行もしてまっせ

東沼波町　北川泰三

佳作　生かされてお役に立ててい日です

須越町　島田洋子

佳作　これからが大切なんです定年後

犬上郡豊郷町　須田さゆり

佳作　赤飯を買うてひとりの誕生日

鳥居本町　寺村美恵

佳作　息子から娘へラインでながす親の老い
松原町　川村　美栄子

佳作　とびっきりの笑顔寄せ合いクラス会
西沼波町　外海　芳子

佳作　風吹けば雲はちぎれてお姉ちゃん
東近江市　知野見　松子

佳作　良い天気今日も一人で録画見る
正法寺町　鈴木　典子

佳作　さりげないひと言ポンと背を押す
近江八幡市　浅野　忍

佳作　こだわりの豆挽く夫のティータイム
京町一丁目　川辺　由子

佳作　「アクリル」に手話の会話が役に立つ
東近江市　村上　定

佳作　もう二度と行けぬ故郷夢を見る
東沼波町　野口　博子

佳作　土筆出て荒神山にも春来たり
平田町　平田　恭一

佳作　老々の介護見守る窓の月
長浜市　勝木　岩松

佳作　まだまだやまだまだまだと夢を追う
大藪町　大塚　しのぶ

佳作　介護して優しい言葉かけられる
肥田町　藤野　佐津子

佳作　地球大事に人間だけの物でない
愛知郡愛荘町　青木　郁子

佳作　祈ります勝手な願い済みません
大藪町　清水　慶昭

佳作　兄は古希俺も還暦縄暖簾
正法寺町　菅野　哲郎

佳作　駅の端ひとりぼっちの切符かな
近江八幡市　中尾　友貴

佳作

タイムカード無いけれど陽がせかす畑

犬上郡豊郷町　伊香　とし子

《総評》

今年度の川柳部門の応募者は六十三人で、昨年よりも四人の増加となりました。選者としてもうれしく励みになりました。

川柳のグループ活動

川柳創作活動を目指す方は、川柳グループに参加されることをお勧めします。その利点の主なものを挙げます。

○作品を選んでもらえる
○作品を添削してもらえることもある
○作品を発表することができる
○指導者や先輩たちから川柳についての知識、情報などが学べる。
○多くの作品に触れることができるので、自分にない良いものを他の人から学ぶことができる。相互啓発ができる。
○競い合うことで作品の質の向上が図れる。
○川柳を通じて友達が得やすい。
○他の川柳グループとの交流がしやすい。

（注）川柳グループについては文化振興課に問い合わせてください。

青木　十九郎

今年は昨年よりも4名多い63名の方の川柳を見せていただくことができました。63通りの物の見方、感じ方、表現の仕方を学ばせていただきました。選者の特権です。有難うございました。最近、キレイと美しいの違いを考える機会があり、自分なりに整理できました。キレイは綺麗です。反対語は汚いです。清潔、無菌、すべすべ、透明、片付いているなどで、コギレイと言う言葉もあります。一方、美しいの反対語は醜いです。小美しいと言う言葉はありません。審美眼は人それぞれで、何を美しいと感じるかは63人いたら63の美しさの感じ方があるのです。ゴッホは朽ちてゆくひまわりの絵を描きました。ゆがみ、ひずみ、ひび割れに価値を見出す人もいます。特に川柳では汚れたもの、醜いものを受け止めていたいと思っています。「キレイが美しい」はやめましょう。句を書くとき

はスッピンで。
本当の夏はちょっと痛い季節でした。

重森　恒雄

長引くコロナ禍の中で、昨年よりも多い応募をありがたく思っています。

一概には言えませんが、ものを書くことが身についた人はストレスに強いようだと私は感じています。現実に降りかかる不安に向き合い、自身の心に溜まっているものを見つめて、ことばを選んで書く、ということを日常的に行っているからかもしれません。

もちろん、もっと気楽な書き方でも構わないのですが、自分を客観的に見る、ということは心掛けてほしいです。「理想の私」を書こうとすると標語のようになってしまいます。

作者がドラマチックと思う句にドラマはなく、詩的と思う句に詩がないことも多いです。

「こんな私だが」と書いてくださるといいのです。そんな川柳を読みたいと思います。

また、せっかくの作品も誤字や正しくない表記がなされていると入賞は難しくなります。辞書をこまめに引く習慣をつけてください。

ありがとうございました。

峯　裕見子

選者吟

ゆっくりと想いを乗せて花筏　　青木　十九郎

楽しみな日になる泥を浴びながら　　重森　恒雄

もう行くねチョークの線を跨いだら　　峯　裕見子